

発達障害に対する理解と対応 —「生徒指導提要」—

発達障害に関する課題

- 発達障害は、生まれつきの脳の働き方の違いにより、対人関係や社会性、行動面や情緒面、学習面に特徴がある状態である。
- 学習活動において困難さを抱えるものもあれば、容易に取り組めるものもある。
学業成績が優秀であっても生活上の困難さを抱えている場合もある。
- そのため、発達障害による能力的な偏りに気付かれず、苦手なことは誰にでもあること、経験や努力不足、意欲の問題、甘えやわがままなどと捉えられがちである。
- つまづきや失敗がくり返され、苦手意識や挫折感が高まると、心のバランスを失い、暴力行為、不登校、不安障害など様々な二次的な問題による症状が出てしまうことがある。
- これらの二次的な問題による不適応の問題を考える際は、見えている現象への対応だけでなく、見えない部分にも意識を向け背景や要因を考えて対応することが大切です。



偉大な作曲家たち

音楽評論家 アーネスト・ニューマン

偉大な作曲家たちは、意欲が湧いたから作曲に取り組んだわけではない。
取り組んだので意欲が湧いたのだ。

出典：「賢人たちに学ぶ 道をひらく言葉」本田季伸著（かんき出版）

※ なかなかやる気が起きないとき、まずは取り組みやすいことから始めるのも一つの方策です。